

## 前十字靭帯再建手術症例における筋力回復の経時的变化

○柴田 洋平 (しばた ようへい) (PT)<sup>1)</sup>, 黒田 良祐 (MD)<sup>2)</sup>, 荒木 大輔 (MD)<sup>2)</sup>,  
木田 晃弘 (PT)<sup>1)</sup>, 瀧口 耕平 (PT)<sup>1)</sup>, 小野 くみ子 (PT)<sup>3)</sup>, 西澤 勇一郎 (MD)<sup>2)</sup>,  
松下 雄彦 (MD)<sup>2)</sup>, 松本 知之 (MD)<sup>2)</sup>, 酒井 良忠 (MD)<sup>4)</sup>, 黒坂 昌弘 (MD)<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup> 神戸大学医学部附属病院 リハビリテーション部

<sup>2)</sup> 神戸大学大学院 医学研究科 整形外科

<sup>3)</sup> 神戸大学大学院 保健学研究科

<sup>4)</sup> 神戸大学大学院 医学研究科 リハビリテーション機能回復学

### 【目的】

膝前十字靭帯 (ACL) 再建術後の症例において, 筋力回復の経時的变化を retrospective に調査し, 筋力回復に影響する因子を検討すること。

### 【対象と方法】

2008年1月～2012年10月に当院及び当科関連病院に於いて半腱様筋腱もしくは半腱様筋腱と薄筋腱を用いて ACL 再建術を施行した510名のうち, 再損傷例, 複合損傷例, 半月板縫合例, 軟骨損傷例を除外し, 当院にて最低3ヶ月術後リハビリテーションを施行した58名(男性31名, 女性27名, 平均年齢26.1±9.4歳)を対象とした。術前, 術後3ヶ月, 6ヶ月, 1年において MYORET, RZ-450 を用いて60°屈曲位の等尺性膝伸展・屈曲筋力の健患比を算出し, 対象を(1)性別, (2)外来リハビリ通院頻度, (3)術前の活動性, (4)術前膝伸展筋力で2群間比較した。(2)は通院頻度を週2以上, 未満の2群に, (3)は Tegner activity score を使用し8以上, 未満の2群に, (4)は術前における膝伸展筋力の健患比を中央値(75%)以上, 未満で2群に分類した。統計は Student's t-test 及び Wilcoxon test を用い, 有意水準は  $p < 0.05$  とした。

### 【結果】

(1), (2) について, 統計学的有意差を認めなかった。(3) について, 術前活動性が高い群は, 術後3ヶ月のみ膝伸展の健患比が有意に高値を示した。(4) について, 術前膝伸展筋力が高い群は, 術後3ヶ月・6ヶ月で膝伸展の健患比が有意に高値を示した。

### 【考察】

術前活動性及び術前膝伸展筋力が, 術後早期の膝伸展筋力の回復に有意に関連していることが示唆された。